



『らいふすてーじ』のいままでこれから

——『らいふすてーじ』はいままでも、これからも、あなたと共に。

2025年度は、あなたにとってどんな年だったでしょうか。『らいふすてーじ』にとって、2025年度は一つの結節点となる年でした。ミニ記事の創設やInstagramの開設、ポスターの掲示開始。今回は、そんな2025年度『らいふすてーじ』に携わった編集部員の中から、執筆者ノへを含めた5名をお呼びし、2025年度『らいふすてーじ』を振り返る座談会をおこないました（10月実施）。読者の皆様、いつもご愛読ありがとうございます。そして、これからもどうぞよろしく。そんな気持ちをこめて、本記事をあなたにお届けします。（ノへ）



本日の進行役！
ノへ
（文・2）

現副編集長。餃子と白飯を一緒に食べる人のことは未だに理解できない。



雛鳥
（文・2）

現編集長。野菜ジュースを飲めば全ての不摂生が0になると信じている。



stat
（工・1）

新進気鋭の1回生！ 予定がない休日の昼ごはんはだいたい明太子パスタ。



みずおにぎり
（医・2）

インスタ担当。白いシチューと白米は合わない気がする。ビーフシチューは合う。



でこぼん
（文・3）

前編集長。餃子と白米をビーフと一緒に流し込む怪物。

はみだし
すてーじ

あけましておめでとうございます！（from2025年11月の自分）
⇒あけましておめでとうございます！ 今年もよろしくをお願いします！

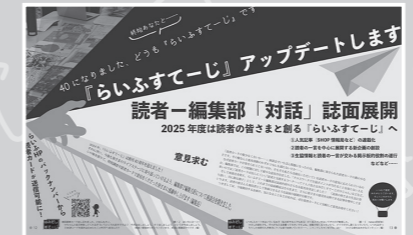
（農・院 いわ）
（2026年まで愛読いただけると嬉しいです；編）

ノへ（以下、ノ）：皆さん、本日はお集まりいただきありがとうございます。進行のノへです。よろしくお願いいたします。では、早速始めていきましょう！

取り組み編

——2025年1月号を振り返って

2025年1月号「終始あなたと——40になりました、どうも『らいふすてーじ』です」では、
①人気記事（SHOP情報局など）の連載化
②読者の一言を中心に展開する新企画の創設
③生協情報と読者の一言が交わる掲示板役割の遂行
の3つが2025年度らいふすてーじの目標として挙げられていました。まずは、これらを踏まえ、今年の『らいふすてーじ』について振り返っていききたいと思います。



▲2025年1月号「終始あなたと——40になりました、どうも『らいふすてーじ』です」

でこぼん（以下、で）：これは僕が書いた記事ですね。執筆者としては①②③全部意識したんですけど、「①人気記事の連載化」「②新企画の創設」は残念ながら実現せず。ただ、「③生協情報と読者の一言が交わる掲示板役割の遂行」との関連で言うと、例えば5月号「マイっちゃうよ 米値上がり」は大きかったかな。やっぱり読者は組合員でもあるから、そこで展開していかなくちゃいけない新企画でしたね。生協の機関誌とはいえ、ただ生協に対してプラスのことを言えば良い訳じゃない。まずは、学生が生協の利用について感じる生の声を、批判的な意見も含めて記事にすること。

はみだし
すてーじ

きのこ？ なにそれ。
⇒たけのこの威勢を借りて好き勝手する狡猾な輩がいるらしいですね

で：そして、その後展開していく新しい一歩も広告すること。その2つを意識しました。他の記事でも、『らいふすてーじ』に取り上げてもらうことで相手の組織に還元しつつ、その中に生協の機関誌という立場を潜り込ませた。そういう点では意識したかな。
ノ：「米」記事は、ちょうど米の値上がりが世間で関心事になってた時期なので我々の生活に直結してたっていうのと、生協の機関誌としての役割も兼ねていて、とても良い記事だと思ってました。



◀5月号「マイっちゃうよ 米値上がり」

で：皆さんはどんな感じですか？
ノ：現編集長としてはどうですか？
雛鳥（以下、雛）：そうですね。とりあえず毎月ミニ記事（1/2または1ページの記事）のコーナーは作るようにしてたかな。実はミニ記事は未読率が低い傾向があって、読者の目を引くのかなと。
あと、新入部員とか、記事を書いたことのない人が初めに取り組みやすい場を作れたのは、編集部員にとっても良かったかな。それこそミニ記事では「目から鱗」のコーナーが多くて。自分の好きなことについて書けるっていうのもらいふの良いところだからね。
ノ：なるほど。「編集部員紹介」についてはどうですか？
雛：編集部員紹介は、らいふを京大生が書いているという事実を読者が知らない、っていう前提のもと始めました。学部と回生が明らかになることで、読者から見た編集部員っていうのが新たな像としてクリアに出てくると、編集部員から見た編集部員像もリアルに伝えられたら良いなと思いました。

ノ：読カ（読者カード）の評判も結構高……まあ読まれてるかなくらい（笑）
低かったことはないですね。これはぜひ読者の意見が聞きたい。（ぜひ読カに感想お願いします！）
で：ミニ記事常連のみずおにぎりさんはどうですか？ ほぼ毎月書いてるけど。みずおにぎり（以下、み）：2ページとか書くのはちょっとハードル高かったけど、ミニ記事ができたおかげで、書きたいことを気軽に書けるようになったかもしれない。今も授業が忙しいけど、1ページとか1/2ページの記事なら書けるし、楽しいかな〜。
ノ：楽しいのが1番ですよ！
雛：そうだね。もちろん読者の存在を意識しながら書いてはいるけど、やっぱり編集部員が楽しく書けるっていうのが1番大事だから。それがあっての『らいふすてーじ』だし。
ノ：かっこよすぎるね。statはまだ記事は書いてないんだっけ。
stat（以下、S）：自分はまだです。クロス（クロスワード）と十色（十人十色）だけ。でも確かにミニ記事があることで、記事を書くハードルはだいぶ下がるなと思います。実際に同期3人は1/2ページ記事から始めたし。
ノ：そっか確かに。じゃあ新入部員の入門記事として、すごいよく機能している。嬉しいところですね。
で：言われてみればそうやな。

Instagramについて

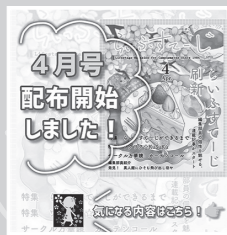
2025年3月に始動したらいふすてーじ編集部公式Instagram。読者の皆さんは気づいていましたか？ 元々X（旧Twitter）での広報活動はおこなっていたものの、Instagramを用いての広報活動は、実は今年が初！ 今回は、編集部インスタ担当・みずおにぎりとともに、そのウラ側に迫ります。



◀らいふすてーじ編集部公式Instagramはこちらから！

（総・4 たけのこ）
（たけのこ派；編）

J：インスタ、毎回こだわってるよね。
み：まず、今まで自分がストーリーしかあげたことなかったから、投稿をあげるにあたって素人感が出ないと良いなと思って（笑） 読者に見てもらえるように、編集アプリも調べたり。
J：あれ全部スマホで作ったとは思えない。デザインもすごい凝ってるけど、全部自分で考えた？
み：背景はとりあえず、今月号の表紙を薄くしたやつを背景にして。あ、でも最近かな。なんかインスタの投稿一覧が前まで正方形だったけど、縦長になってない？
一同：なってるなってる。
み：投稿は全部正方形で作ってるから、一覧では表示が縦長になっちゃって。最近意識してるのは、「〇月号配布開始しました」みたいな時に、あんまり端に寄せると文字が切れちゃうから、できるだけ文字を真ん中に寄せてるかも。
J：へえ～。
で：いや、ほんまに見ててそう思うよ。「この情報何？」みたいなやつ一つもないもん。全部ちゃんと分かる。
み：他にもそういう、「これはこうした方が良いな」みたいなことをちょっとずつ積み重ねていったら、最初の投稿と一番最近の投稿、意外とちょっと変わってるかもしれない。文字の大きさとか、中央寄りになったりとか。あとは……うーん、言語化できません（笑）



▲初期の投稿（左）と最近の投稿（右）。
こうして見ると、確かに変わっているかも？

み：あとは流行ってる曲とか、投稿によく使われてる曲とか、投稿に曲つけたら他のユーザーに表示されやすくなるみたいな。
J：あれ、趣味で入れてるんだと思ってた。
み：正直趣味もある（笑）好きな曲で、かつ投稿に使われてる回数が多いやつを使ってる。毎回何の曲使ったかを書いて、アーティストも被らないように。
で：すごい。DJやな（笑）
J：投稿関連で言うと、表紙のタイムラプスとかどうですか？
み：リールは投稿よりもフォロワーじゃない人が閲覧する数多くて。
J：へえ～実際リールは他の投稿より伸びてたりするの？
み：それが……そういうわけでもないから……。
J：難しいな……いいねしないだけで見られてはいると思うんだよね。
み：でも閲覧数は最初の頃から伸びてるから、ぼちぼちね。このまま有名になって欲しいですね。
雛：目指せフォロワー1,000で！

——その他の取り組み

J：他には、十色右ページのはみだし（はみだしすてーじ）が、次回予告の「ねくすとすてーじ」に変わったりしましたね。
み：「ねくすとすてーじ」って言ったの誰でしたっけ？
で：僕です！
一同：おお!!
み：「それだ！」って思いました。
で：「はみだしすてーじ」にちなんで、「ねくすとすてーじ」にしちゃおうぜみたいな。これでもし他に「僕が言った」っていう人が出てきたら、タイマンですね（笑）
J：読者の皆さんは気づいてたかな？
雛：でもはみだし見るの楽しいっていう読者も多いよね。そのまま流れるように見てほしい。
で：クロスの下にあるからね。さすがにクロス見て、次回予告見て、「ねくすとすてーじ」を……って。

J：あとは、今年から始めたポスターと手配り。大変でしたね。
雛：これは本当に大変でした。
J：新規読者を狙った取り組みでしたが、手配りは誰も受け取ってくれない（泣）特に中央食堂！
み：ほんとにメンタルが削れていく。
雛：吉田食堂は1回生が多いからか、結構受け取ってくれるけどね。
J：編集部員のコネでほぼ受け取ってもらう（笑）あとポスターですね。
雛：ポスターも大変でしたね。生協の各店舗にメール送って、大丈夫ですかって聞いて。ポスターの裏には編集部員の血と涙が……みたいな（笑）裏で色々やって実現してるっていうのもある。
J：そうだね。ぜひ注目してほしい。いや注目はしなくてもいいけど。
S：冊子を取ってください！
雛：やっぱりらいふって置いてある位置がマジで見えにくいから、ポスターによって配置を知ってもらえたら嬉しい。手配りは、ほぼ叫びながらずっと配ってる。以前読力で「配ってる皆様いましたね」ってあったけど、頑張ってる配ってます。
J：本当にそうだね。ちゃんと書いてる人がいますよっていうのをアピールする場でもあったから。
雛：受け取ってもらえなかったとしても、『らいふすてーじ』っていう存在だけでも知ってもらえたらと思ってやってる部分もある。頑張りますよな。
J：作るのも配るのも頑張ります！



▲ポスター（左）と吉田食堂前での手配りの様子（右）。

記事編

——自分が書いた記事について

J：自分は6月号「ぶんこもについて知ってみない？」ですね。1番頑張りました。あと実はエッセイも書いて、ぶんこもHPに寄稿させていただいてます。このご縁があって、ぶんこもから「持ち込み企画も大歓迎です」っていうメールも頂いたりして。
雛：あれはめっちゃ頑張ってたよね。インタビューって大変だけど、やっぱり関係性を作れるからね。
J：それも大きかった。実際6月号はぶんこもに置いてもらえたりして。らいふにも貢献できて、嬉しいですね。でこぼんさんはどうですか？

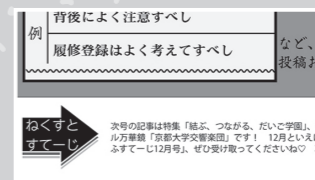


▲ぶんこもに寄稿させていただいたエッセイはこちらから読めます！（左：J、右：でこぼん）



で：今年僕が書いた記事は、基本的には読者や他組織から依頼があった「書かなくちゃいけない」記事だったわけだけど、特についているのであれば、やっぱり「米」記事は外せないかな。あと個人的に言ったら、6月号「島鳥」。これもそもそも、J YMAの金原さんからの依頼で書き始めた記事だけど、戦後80年だし、沖縄県民って京大において少ないし。僕も沖縄県民なわけだけど、色々な人がいる京大で、色々な意見が飛び交う中で、じゃあ自分がどうそれを吸収するのかっていうところで、新たに考えてもらうきっかけとして、ちゃんと自分の中で書けたのが良かったかな。
J：あれも良い記事でしたね。statはどう？
で：初めての記事も世に出て、読者評価も来てるもんね。実際に書いてどうだった？

S：クロスについては、負担的には思った通りぐらいの感じで。最初に書くものとしては、ちょうど良かったと思ってます。実際に作ってて楽しかったし。あとは十色。こっちの方が、個人的には自信作というか。ほんまに自分が書いたんかっていうぐらい、はっちゃけてましたね（笑）今見返して思ったのは、（本名）とstatって別の人格なんじゃないかっていう。記事書くときは思考が違うかもしれない。文面の上だとはっちゃけられるというか。
で：気持ち分かる。
雛：「ねくすとすてーじ」にも「受け取ってくださいね♡」って書いてたもんね（笑）すごいはっちゃけてて良いなって思った。
J：意外な一面が見られて嬉しいですね。
S：ついでに言うと、十色は面白さと、自然な流れの両立が結構難しかった。
雛：確かにね。どれを採用するかとかも継ぎはぎだし難しいよね。でも、十色は毎回評価高いから、読者の反応が楽しみです。11月号もどうなるかな。



▲11月号の「ねくすとすてーじ」より。「受け取ってくださいね♡」の文字が。

J：みずおにぎりは？
み：私は趣味に走って書きたいやつを書いたかな～。今年は取った般教の影響で、西洋絵画とか、ギリシャ神話とか聖書とか、神話系に結構走って。そしたら他の神話も気になって、日本神話も書いて、今度はエジプト神話も書いて……みたいな。でも本来ミニ記事って読者の声に応えるものなのに、趣味に走りすぎたなって思って。それで11月号で読者のリクエストに応じて、ニックネームの由来をまとめてみたり。
で：あれ面白いよね。5月号と10月号の「西洋絵画」記事は、ちょうど行楽シーズンにかぶってるから、外出の機会になったりして。

み：ちょうど京セラ美術館でやってるやつを取り上げたらみんな行けるとか、夏休み前に旅行先の日本神話の話書いたら興味持って行ってくれるかな～とか。一応趣味に走るけど、独りよがりにはなりたくないから、読者の需要も考えた。
雛：装飾もこだわってたよね。タイトルの絵に天使がいたり、背景もすごい凝ってるから、記事自体がまさに展覧会みたいな感じで良かった。
み：確かにデザインも楽しんでできたかな！



▲10月号「京都市京セラ美術館で西洋絵画を楽しもう Part 2」
タイトルにはこだわりが見える。

J：じゃあ次、編集長。
雛：いっぱい書きましたね。今年はやっぱり表紙を頑張ったかな。4月号と10月号を書いたけど。
み：かわいいよね。
雛：ありがとう♡ 読力でも、表紙について言及されていて嬉しかった。今年は絵を描くのが好きな人が集まるから、かなり高クオリティのものが作れたな。例えば4月は黄色、5月は緑みたいな感じで、テイストも毎月変えてたり、そういう違いを楽しみながら受け取ってくれる人がいたんじゃないかなとは思ってますね。
S：すごく尊敬します。



▲4月号表紙（左）と5月号表紙（右）。
カラー版はBACKNUMBERへGO！

J：記事はどうか？

雑：12月号「結ぶ、つながる、だいが学園」は、私が今まで1番頑張った記事です。去年の夏にだいが学園の存在を知ってから、ずっと「いつかインタビューに行くぞ」って思ってた。元々だいが学園は生協的にも取材してほしかったらしくて、生協ショップでも、12月から記事に関連して装飾をこだわってくれるみたい。生協との繋がりと、自分の興味とを繋げられて良かったです。初めて書くのが楽しいと思ったかもしれない。

J：今まで苦痛だと思ってた！?

雑：苦痛ではないんだけど、記事書くのってこんなに楽しいんだと思って。「だいが学園」は本当に心からやりたいと思ってた記事だったから、実際書いて本当に幸せやし、布教できるし、一石二鳥。

で：寝かせてた記事って美味しいよな。

雑：本当にそうですね。自分の中で試作している間もどんどん想像を膨らませて、やっと形にできたから。嬉しかったです。



▲12月に吉田ショップでおこなわれていた、だいが学園の装飾。

読者の編

——1回生に聞いてみた

J：1回生のstatは、実際入部して感じたこととかある？

S：そうですね、新歓の時と入った後で、良い意味でありのままというか、何も変わらなかったです。ただ、やっぱりストイックに、真面目にずっとやってるのかなっていうイメージはあって。

雑：確かにオンオフはめっちゃあるよね。

S：雑誌作るのは自分には厳しいのかなとか、既存の編集部員の方々は何事もてきぱきこなしてるのかなとか思ってたんですけど、先輩方も意外と順調ではないし、困ったりしてることもあったりして。人が作ってるなど。

で：でもstatは、みんなの安心感の足元にいるから、大丈夫だよ。本当に。

S：締め切りギリギリの人がおったりして。

雑：本当にそう！締め切りは守ってください。頑張りましょう。

J：来年度に向けてコメントある？

S：できるだけ現状維持を頑張っていきたいなと思ってます。今危惧しているのは、今の1回生の中に表紙を描ける人がいるのかっていう。

雑：確かに表紙のクオリティーは本当に上がってるからね。1回生で描きたい人がいればぜひ描いてほしいと思うけど、クオリティーが上がりすぎたっていうのが逆に足枷になってるようなら、ごめん。

で：表紙は別に写真とかでもいいからね。僕は写真派ですから。ぜひ写真も使ってください。みんなそれぞれの味があるの。

J：記事についてはどう？

S：京都の星が見えるところをピックアップして紹介したいとずっと思ってるんですけど、まだ足が動いていない。あとは歴史も好きなんで、面白い歴史上の事件とかあれば書きたいなと思ってます。

J：お～楽しみにしてます！

S：あと今考えてるのは、らいふとか、もしくは編集部員への質問を読力で書いてもらって、それにはみだしで答えるとかやると、より読者との距離感が近づくかなと。

雑：あー良いね！はみだし一問一答みたいな。面白そう。

J：良いね。ぜひやってほしい。来年度が楽しみです。

——読者に一言！

J：自分も一読者でありファンだから、楽しんで読んでほしいに尽きますね。そのために我々は頑張ってるので、ただ楽しんで読んでくれたらそれが1番です。

雑：らいふを新たな発見ができる場所、新たな好きなものが見つかる場所にしてほしいです。私は、それがらいふの目標だと思ってるの。

み：これからも趣味を全開に書いていくので、ぜひ楽しんでください！

で：おしゃべりしたいなと思ったら聞いてください。そこに俺はいるから(笑) 感覚としては、「こういうの行ってきたんだけどどう？」って、夜でも学校帰りでも、週明けとかに来た時におしゃべりできる共有の場になるのかなと。みんな同じ『らいふすてーじ』にいるわけなんで、仲良くおしゃべりしていきたいです。

S：いつも読んでいただいてありがとうございます。『らいふすてーじ』が皆さんの月初めのちょっとした楽しみになってくれたら嬉しいです。これからもたくさん頑張って書くので、よろしくお願いします！

で：大きな未来が待ってるからね。

J：1番未来あるから。

——現編集長・雑鳥より

雑：今の編集部は部員の数が少ないから、現状維持さえも厳しくなる可能性があつて。だから、読者の皆さんに編集部を身近に感じてもらえると嬉しいし、加えて新たな編集部員も増えると嬉しいです。あとは、来年度から、生協の委員会の記事を書ける取り組みを始めようと思っています。らいふすてーじ編集部は学生委員会に所属してるんだけど、他の委員会の活動も丁寧に拾って、記事として読者に届けるとか。らいふを通じて委員会同士で横のつながりができて、取材に行きやすくなったり、影響を受けて、書きたい記事が思い浮かんでくれたら良いなと思ってます。引き続き頑張りましょう！

読者コメント返し編



5月号表紙の白い服の女の子がかわいい！ ふんわりした髪と緑の瞳が良い！
あと、5月号や10月号の京セラ美術館の特集が良かったです。解説が読みやすく、展覧会に行く前に読めば行きたくするし、行った後に読めば「この絵はこう言うことだったんだ」とその場では理解しきれなかったことが理解できてとっても楽しいです！（たけのこ）

5月号の表紙は編集部もみんなお気に入りなんだよね。

やったー！ 言ってほしいこと全部言ってくれてる(笑) まさにその意図です。ありがとうございます！



旬なネタも取り入れつつ毎月無料で発行してるのは本当に凄いです！
そしてもっと当選してほしい！ ので毎日祈ります。（生協コーヒー牛乳愛飲者）

こちらとしても当選してほしいとは思ってるんですけどね……
確率的には5回に1回くらいで当たるのでぜひ頑張ってください！



表紙の作り込みがどんどん綺麗になっている気がします。（DoraLove）

表紙が毎回素敵でした！（梅ゆき）

ありがとうございます！



神のみぞ知るセカイの人が京大出身だったことに驚きました！ 10月号で初めてらいふすてーじを読んだのですが、新しい発見や知的好奇心をくすぐる記事はとても最高です。また新たな発見をさせて下さい！（飲むヨーグルト）

まさに望んでたコメントで嬉しい。新たな発見をしてほしいと思って書いてます！

出来すぎてサクラを疑うレベル。



京大生の生活と深く関わりがある話題が多く取り上げられていてよかった。（はる二キ）

我々も京大生の最前線として生活を送ってるわけだから、そこからできる関わりに言及してもらえるのは嬉しいです。



今年も面白かったです。来年も楽しみにしてます。（ビビビ）

来年も読んでくださるということで……ありがとうございます！



らいふすてーじ大好きです。編集部の皆様本当にいつもありがとうございます。これからも丁寧に親切なお仕事内容頑張ってください。応援しています。（前髪長め）

こういうシンプルなコメントがなんだかんだありがたいです。



はみだし
すてーじ

そろそろ別れの季節、友人とも、この学び舎とも。またいつか、会えることを祈って
⇒願望：願わば叶う 大吉

（文・院 ただの熊）
（らいふのご愛読もありがとうございました。またお会いできることを願っております；編）

はみだし
すてーじ

NFは月曜日から始まってほしい
⇒分かります。奇跡の9連休はならずか……

（文・1 匿名希望）
（学外来場者の都合？ 知りませんねえ；編）